

・・・行政との関わり・・・

意見交換会・・・「今後の住環境を考える」 8月4日実施

市長との懇談会・「市長が聴く対話のひろば」 8月21日実施

## 30年8月度役員会

8月4日（土）、13:30～15:30、久木会

館で23名（うち役員13名）が参加して開催されました。主とした議題は次の通りです。

### 1. 「今後の住環境を考える」というテーマでの、行政との意見交換会

#### ①住環境形成計画

「今後の住環境」とは、変化していく時代に対応して、これからの住まいと地域のあるべき姿を意味します。「今後の住環境を考える」市の基本計画が住環境形成計画です。

市総合計画に位置付けられている「安全で安心な、快適な暮らしを支えるまち」実現のため、昔から愛されている景観を保持しながら、人口減少の対策として若年齢層の流入の促進、生活の利便性を考えての高年齢層の住み替え、それを可能にする多様な住宅供給等の課題を解決し、魅力的なまちを創ろうという計画です。詳細は市のホームページに掲載されているのでご覧ください。

#### ②市の描くイメージ

まちを、商住（にぎわい）ゾーン、近郊（まちなか）ゾーン、郊外（うるおい）ゾーン、海浜（おもむき）ゾーンの4ゾーンに分けてそれぞれのゾーンに適した住環境の目標を掲げます。

久木小学校区は、県道沿いの商店が存在する部分は、商住ゾーンに、残りは近郊ゾーンと郊外ゾーンに分類されています。3ゾーンで市が示す目標は以下の通りです。

【商住ゾーン】商店街には誰もが快適に回遊できる商業施設が連なり、幹線道路沿いでは生活に密着した商店が点在し、いつも買い物や交流を楽しむ人々で賑わっている。また、上層階や生活道路沿い宅地には利便性を活かした多様な住居が配置され、商と住それぞれのコミュニティが融和した特色ある住環境を目指す。

【近郊ゾーン】利便性が高い立地特性を活かし、子育て世代、単身者、高齢者等、生活スタイルが異なる様々な居住者像が選択できる多種多様で快適な住宅供給を推進するとともに、地域コミュニティが活性化する憩いの場等の交流施設を創出し、便利で安心して暮らせる住環境を目指す。

【郊外ゾーン】緑豊かな自然環境から近い立地特性のもと、子育て世代が自然の恩恵を身近に感じながら健やかに生活できる環境を保つため、ゆとりある住宅の保持・創出や住替え支援を推進するとともに、高齢者・障がい者等にとっても不便がないよう、交流施設や交通手段の確保に努め、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる住環境を目指す。

#### ③出された主要な意見

活発な意見交換がされました中から、幾つかを掲

載します。

◆ (計画と規制) ; この計画で何か新しい規制が加わるのか⇒そういう側面もありうる。条例で一律の方針を取るのではなく、協議によってまちづくりが進む制度設計を考えている。住環境の合理化を進めていきたいと考えており、場合によっては規制が緩むこともありうる。◆ (交通) ; 高齢化社会では、住民の足の確保が重要である。高齢者の住み替えと住民の足の確保の施策を混同しないように。◆ (空き家) ; 地域コミュニティの形成を図るとは具体的に何をやるのか。⇒他部署と連携して地域の空き家・空き店舗の活用で拠点づくりを進めたい。◆ (空き家) ; 住民が空家を活用したい場合、所有者等との接触等の進める方法がわからない。◆ (最低敷地) ; 最低敷地の問題をどのように解決するか⇒地区まちづくり協議会・地区

計画などの方法で、地域特性を考慮したうえで、進めていくことが肝要だと考えている。全市一律は考えていない。◆ (最低敷地) ; 若年層はお金があるわけではないので、若年層を呼び込みたいならば、土地の細分化は避けられないのではないのか。◆ (ゾーニング) ; 転居には金がかかる。お金がない高齢者に転居は出来ない。ゾーニングは理想論ではないのか。◆ (その他) ; 郊外ゾーンと子育て世代の導入・最低敷地の関わり、駅前の開発の問題、等が話題となりました。

#### ④今後の計画

ワークショップ、お出かけ円卓フォーラム、説明会等を開催、まちづくり審議会からの意見聴取を経て30年12月に計画策定を予定。ご意見提示・問い合わせはまちづくり景観課までお願いします。

## 役員会からのお知らせ

### 1. 「私の(考える)地域づくり」をテーマにした座談会

首題の座談会を8月4日、10時~12時、久木会館で開催しました。

出席者は、田倉由男(座長、山の根)、小林寿志(久木)、小田鈴子(ハイランド)、龍村敦子(山

### 2. 市長との懇談会を開催

8月21日(火) 10:00~11:30、久木会館で、「市長が聴く対話のひろば」を開催しました。参加者: 29名(内住民協から23名)

この企画は、市の施策・課題の情報共有を目的に、昨年の9月からスタートしています。今回で3回目となります。懇談会の主テーマは久木小学校区住民自治協議会の活動状況と課題です。

①住民協の運営と課題(鈴木事務局長)

②久木会館の運営(勝山理事)について両氏から、

### 3. 市総合防災訓練

9月29日(土)、9:30~12:00、第1運動公園で開催

### 4. 避難所訓練

10月14日(日)、10:30~聖和学院をメイン会場として、久小校区の避難所訓練が開催され

の根)、石井達郎(山の根)、東浩司、(久木)、小橋綾美(ハイランド)、門脇茜(久木)、齋藤千夏(ハイランド)、内山由香里(山の根)の皆さん、住民協が進めている地域づくりの方向性を、構成員の皆様にお伝えして情報共有することを趣旨としており、座談会の内容は10月末に発行を予定している全戸配布広報誌「住民協ひろば特別号・第2号」に掲載を予定します。

並びに4部会リーダーからの現状報告あり、それに基づき市長を中心に質疑応答が展開されました。

冒頭、市長から地方自治の基本的なコンセプトの説明があり、活発且つ有益な対話の場となりました。特に久木会館のコミュニティセンター化の流れについては、具体的な展開の可能性が感じられました。

「住民協を足場に、自治を拡大」「行政から自治を奪い取る」この市長の言葉が印象に残りました。

三浦半島断層群を震源とした地震(震度6強)発生の想定の下で、自治会単位の募集で、各種技能訓練があります参加ください。

ます。訓練は、参加者が実際に避難所開設を行ってみる実践的な訓練を予定しています。経験する

ことが稀な災害に対しては、普段の訓練によってしかいざの時の対応を身に着けておくことができません。訓練に参加して、行動がとれるように

## 5. 第7回（7・27実施）みんなの食堂

メインディッシュは焼きそば、参加者（登録人数）127名（子ども76、大人41、スタッフ10）、収入¥31,527、支出¥23,217でした。今回の特徴は、暑い夏を少しでも涼しく過ごそう

しておきましょう。

これまで参加されてない方はぜひ参加してください。訓練内容の詳細は10月号に掲載予定。

と、別料金で飲料を提供、地域の子供バレーグループのお披露目会がありました。地域別参加者は、久木85、山の根23、ハイランド4、その他15。次回は9月28日（金）です。

## トピックス

### 鶴岡八幡宮ぼんぼり祭

毎年立秋の一日前から鶴岡八幡宮で開かれるぼんぼり祭、今年は8月6日から9日まで開かれました。時を合わせたように台風13号が襲来し、7日夜から荒れ模様の予報を受けて急いで7日の午後見物に出かけました。

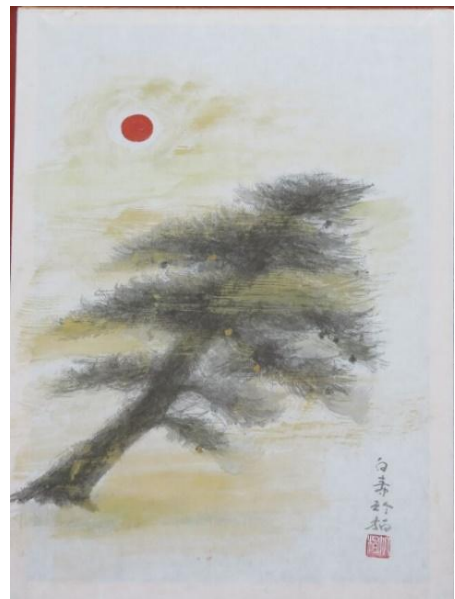


鎌倉近傍ゆかりの方々のぼんぼりが参道を飾り、夜になると点灯されて幽玄の世界を創り出します。久木小学校区にご縁のある方々のぼんぼりの幾つかを紹介しましょう。右上は、山の根在住、新進気鋭の中村鳳男画伯の勢いあふれる龍。

左は久木在住の佐藤泰正画伯の楽しいぼんぼり、不思議の国に引き込まれていくようです。

下は、社頭を飾る柏原ゆかりの鈴木竹柏画伯のぼんぼり、風雪に耐えた古松を思わせます。白寿のサインが見られます。

鈴木為之（山の根在住）



### 編集後記

今年は、初めて経験する酷暑といえる異常な夏になりました。日中は蝉が鳴かず蚊に刺されることが少なく、虫が少ない夏です。虫たちが活動するに適した温度を越しているのでしょう。

一方、菜園のトマトやカボチャは実り豊かです。但しカボチャは自然受粉では実らず、全てが人工授粉です。人と虫の関わりの大切さを知る夏となっています。

事務局長 鈴木為之 (tame\_yuki@ybb.ne.jp)

山の根3丁目緑地の一角に、山に囲まれた約1,100㎡の平地で、人の入り込めないような竹林に覆われ、粗大ごみの不法投棄が沢山ある場所がありました。平成19年10月に逗子市とアダプト契約を結び、山の散策路造りと、この平地を住民の交流の輪を広げるための野草園として整備する構想を立て、平成20年、竹林を伐採し、粗大ごみも処分して野草園を造りました。平成21年には、この野草園の一部を畑に開墾、サツマイモを植え、やきいも大会・散策路歩きを行い、子供たちの情操教育の場・高齢者の交わりの場としました。

平成22年に、畑活動を本格的にスタートして、この活動を、畑作業による交流事業として、市の協同事業制度の認定を受け、現在に至っています。サツマイモ・ジャガイモ・里芋・大根・落花生・エンドウ豆・きぬさや・春菊・玉ねぎ・人参・蒨（自生）・ミョウガ（自生）等を植え、収穫時には収穫物を分けあって、人の絆を強くすることができています。

畑活動を第一・第三土曜日の月2回の作業日を設けて大勢の方が参加できるように逗子広報・谷戸の風（町内会新聞）・掲示板などに広報しています。作業日には、貸農園で鍛えたベテランの男性をリーダーとして毎回平均20名の参加者があり、おしゃべりを楽しみながら、和気あいあいと畑造りをしています。ジャガイモやサツマイモの収穫時には、子供会や松本谷戸サロンにも声掛けをして、楽しんでもらっています。



### 《収穫物によるイベント》

ジャガイモ——子供たちと一緒にジャガイモ掘りを行い収穫したジャガイモを茹でて参加者と一緒に試食を行います。

サツマイモ——子供たちと一緒にサツマイモ掘りを行い後日やきいも大会に利用されます。

大根・人参・里芋——もちつき大会の時に提供されるトン汁の材料の一部に利用されます。

今後も里山活動を通じて住民の交流の輪を広げ、絆を強めていきたいと思えます。  
緑地の粗大ごみの不法投棄はなくなりました。